

会 議 録

会 議 の 名 称		平成２８年度 第３回豊中市市有施設有効活用委員会	
開 催 日 時		平成２９年（２０１７年）２月１０日（金） １５時００分～１７時００分	
開 催 場 所		福祉会館 第３会議室	公開の可否 ☒ ・不可・一部不可
事 務 局		資産活用部 施設活用課	傍聴者数 １人
公開しなかった理由			
出席者	委 員	○市有施設有効活用委員会委員５名 伊丹康二委員・佐野こずえ委員・新藤晴臣委員・深澤俊男委員・吉田寛子委員 （五十音順）	
	事 務 局	○資産活用部 福田部長・志水次長・藤家課長・池上主幹・牛尾補佐 大西係長・中川主査・橋爪主事・芦田主事	
	そ の 他		
議 題		１．豊中市公共施設等総合管理計画の策定状況について ２．答申の骨子案について ３．その他	
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり	

審議等の概要（主な発言要旨）

発言者	内容
< 1. 豊中市公共施設等総合管理計画の策定状況について >	
事務局	（資料 1－1・2 に基づき説明）
委員長	委員会で議論してきた内容をもとに、施設のマネジメントをどのように進めていくかという視点で議論を進めたい。
委員	施設の入りやすさや、利便性を念頭に置いた複合化を進めてもらいたい。
委員長	施設をどう「管理」するかという計画であるが故に、どう利用するかといった視点が希薄になりがちである点は留意が必要である。計画素案の p51 に示している「施設利用の促進」等については進めてもらいたい。
委員	経費などが明示されている点や、それに基づく将来ビジョンが示されている点は良い。
委員長	委員会では、具体的な施設総量イメージが無い中で議論してきたが、本計画で施設総量フレームが具体的に示されたので、それらをあわせた取組みが期待される。
委員	計画期間が長いので、当事者意識を持って取り組めるような工夫が必要である。短期的な目標設定も必要と思われる。「市民ひとりあたりの経費」などを示すことも、一つの方法ではないか。
委員長	市町村合併を経た自治体等では、30 年で 50%の削減といった、非常にシビアな目標を設定している例もある。今回施設総量フレームが明示されたことで、建物の更新等を行う際の前提条件ができたことは大きな成果である。
委員長	いかに施設を管理するだけでなく、多機能化やサービスの提供方法に関する議論を意識したマネジメントを進めてもらいたい。
委員	計画に掲げる目標設定として、施設総量を現状の 80%という目標は定量的で分かりやすいが、より良い公共サービスという目標はやや抽象的でもある。より良い公共施設とは何たるかを明らかにしておくことが、具体的に取組みを進める際には必要である。
委員	市民ニーズが多様化している中で、そのすべてに対応していくことは難しい。視点を絞って効果的に注力するといった姿勢も必要である。
委員長	施設総量が 80%になるからといって、提供するサービスも 80%になるわけではない。ニーズを踏まえ、サービスの見直しを進めるということが、より良い公共サービスという表現になるという理解である。

発言者	内容
委員	施設再編を進める中で、例えば建物を更新した数年後に、別の機能も複合化しておけば良かったといった事態が発生することも予想される。フレキシブルに機能を変更できるような工夫も必要である。多目的という用途設定も、結果的には特徴が無く、利用しづらくなることがあるので、難しい問題ではある。
委員	計画策定にあたって市民アンケートを行っているが、結果をどう解釈するかという点は注意が必要である。例えば、利用者が少ない施設を減らせばよいという意見が多かった点については、その原因として、施設そのものに問題があるのか、あるいは利用方法や周知方法に問題があるといった要因分析も必要になる。項目に対して課題が一对一对応するとは限らない。
委員長	利用者が少ない施設を減らすべきという意見が多かった点は意外であったが、今回の委員会でも、一次抽出の方法として、利用者が少ないという基準を設定しており、市民の意見とも一定の整合がとれた抽出方法と言えるのではないかと。
委員	公共施設の利用履歴の有無で回答に大きな違いは見られたのか。
事務局	利用履歴の有無で結果に大きな違いがあるということはない。
委員	普段公共施設を利用する層であっても、やはり利用者が少ない施設については減らすべきという意見が多いということになる。
委員長	本日出た意見も参考に、同計画に基づく取組みを進めてもらいたい。
< 2. 答申の骨子案について >	
事務局	(資料 2 - 1・2 に基づき説明)
委員長	この会議では、答申に盛り込むべき論点に漏れが無いといった視点で議論したい。まずは第 1 章～第 3 章の内容について意見交換を行いたい。
委員長	資料 2 - 2 の p12 以降の集会機能の再編に関する論点について、施設総量削減についての意見が多かったため、例えば論点④の「複合化の推進」の部分でも、施設総量の削減を意識しながら再編を進めるという内容を盛り込んでいきたい。
委員長	同じく集会機能の再編に関する論点として、その役割を持った空間は民間でまかなわれている部分もあるという視点を入れていきたい。実際、吉田委員の携わられている音楽サロンでも、地域の人々が利用できるフリースペースの機能を兼ね備えている。

発言者	内容
委員	地域交流を促進したいという思いが起業のきっかけでもあった。あいている時間帯は、地域で使ってもらいたいと考えている。地域の団体が集会スペースを探している中で、音楽サロンにたどり着いたという例もある。多くの人が訪れることで、「施設が元気になる」と考えている。 ただし、施設を管理する立場で言えば、事故等が発生については不安材料であり、課題である。
委員長	例えば、管理運営委員会で管理している地区会館で事故が発生した場合は、責任はどうなるのか。
事務局	幸い地区会館で事故が発生したという例は無かったが、市が加入している保険では、市の主催事業実施時に事故が発生した場合や、施設の不具合によって事故が発生した場合に適用されることになっている。その意味では、地区会館の中で事故が発生した場合はそれぞれの責任という形になる。
委員	管理面で言えば、例えば異世代交流（高齢者と小さな子どもたちなど）をした場合には、事故のリスクも高まるので、注意している。
委員	民間との連携は委員会全体を通じて議論してきた内容でもある。4章のまとめの部分では、「公共の3要素」の話題が出る中で、管理運営体制の見直し等についても言及しているので、その中でまとめていく方法もあるのではないかな。
委員	4章に関する話題になるが、前期の委員会で、実際の施設見学を行った際、高齢者向けの施設は利用率が高い印象があった。明確な目的をもとに集っていると同時に、集まること自体が目的になっている側面もあると感じた。人々が集える空間という意味では、「公共の3要素」の『コモン』『オープン』といった議論につながるものと考えられる。
委員	資料2-2のp17の、教育・就労相談支援機能を有する施設に関する論点の③「施設の名称」について、名称自体も一つの問題であるが、それ以上に根本的な問題として、場所や事業内容が分かりにくいといったこと考えられる。施設についてPRしていくことの必要性についても言及する必要がある。この議論を踏まえ、「施設をオープンに」というまとめにつなげていくという構成が良いのではないかな。施設が「身近な存在」になっていくと良い。
委員	深澤委員から指摘のあった内容が、案件1で議論になった「より良い公共サービス」の具体例であると考えられる。

発言者	内容
委員	案件１でも指摘したが、利用者が少ない背景には、情報の分かりやすさの問題などもあると考えられる。例えば市のホームページで、「施設を借りたいとき」といった形で目的別のページを作っておくと、利用者にとっても分かりやすくなるので、そういった情報発信方法の工夫も必要である。
委員	資料２－２の p17 の、教育・就労相談支援機能を有する施設に関する論点の③「施設の名称」について、見出しをもう少し大きなテーマにしてまとめることができれば、施設の情報をわかりやすく発信することで利用が促進されるといった議論の内容にも触れられるのではないかと。
委員	以上の議論を踏まえると、利用しやすい・入りやすい名称にしていくということも考えられる。居住歴の浅い市民にとっては、知らない施設も多いということが現実だと思われる。
委員	施設の名称は難しい問題である。事業内容を広くとらえて命名すると、結果的に内容が分かりづらくなるという面もある。複合化を進めると、命名は一層重要な問題になってくる。
委員長	昔は「図書の貸し借りをする場所が図書館」と、「単一機能単一施設」であったが、機能が多様化するなかで、施設の名称のみでは機能を表現しきれなくなっている。こういった問題は、公共施設、ひいては日本の建築物全体に共通する問題とも言える。従前の名称のままでは現状の機能に合っていないという課題があるので、その点については言及したい。
委員	資料２－２の p3 で、公共施設等総合管理計画との関係について、「事業内容に課題のある施設」というものは具体的にどういった施設を指すのか。明確な基準があるならば、明記しておきたい。
事務局	豊中市で過去に行財政改革の取組みとして、課題のある事業をピックアップし、これを「事務事業の見直し対象事業」として、進捗管理を行っている。答申本文でもその内容を説明するようにしたい。
委員長	続いて、４章の内容について議論したい。 まとめの中で「公共の３要素」について触れているが、これは過去の調査研究会や、先日の公共施設フォーラムで発言したものであるのもので、改めて整理をしたい。 早稲田大学の齋藤教授が、「公共性」という本の中で、「公共」という言葉の使われ方として、３つがあるという指摘をしている。例えば、「公園」の「公」は、公式な、『オフィシャル』な場所という意味よりも、開かれた場という意味合いが強く、『オープン』という趣旨を表している。あるいは、「公共の福祉」といった言葉では、この「公共」は「全ての人に共通する」という『コモン』

発言者	内容
	という意味で用いられている。 そのうえで、公共施設を考える場合、その「公共」の持つ意味について、先に挙げた３つの要素のバランスを考えていく必要があるというのが、発言の趣旨である。 吉田委員からも「入りづらい」という指摘があったが、これはまさに、これからの公共施設には、『コモン』や『オープン』の要素も求められるのではないかと考えている。 とりわけ『コモン』の概念が分かりづらいのではという意見もあったが、「全ての人に共通の」「公益の」といったイメージである。
委員	まとめの中でも特に最後の部分は重要である。本日の案では、３つのバランスというよりも、『コモン』『オープン』を重視していくべきと言う論調になっている印象がある。バランスを重視しつつも、今日的なニーズに沿って、『コモン』『オープン』な要素も意識していく必要がある、といった論調が相応しいのではないか。
委員長	オフィシャルな要素が不要なのであれば、それはむしろ公共施設である必要すらないということも言える。バランスが重要であるという点は指摘のとおりである。
委員	委員会で、この「公共の３要素」を中心に議論してきたわけではないので、まとめの中で簡単に触れる程度でも良いのではないか。
委員	佐野委員の指摘と同様の意見である。ここで齋藤教授の考えを引用した目的や理由を明確にする必要がある。建築や公共施設の分野では、この考え方は浸透してきているものなのか。
委員長	齋藤教授は政治学が専門である。建築の分野では最近この考え方が引用される機会が増えている。公共施設に関する考え方ではなく、広い意味で公共とは、という概念であるので、まずはこれまでの委員会での議論を整理したうえで、参考までに齋藤教授の考え方にも通じる部分があるという説明にしてはどうかと考えている。
委員	まとめ方について一つの提案であるが、３章で提示した論点の中には、「複合化・多機能化・戦略的配置」という、これまでの委員会で議論してきた論点もあるが、一方で、「管理運営のあり方」や「施設の入りやすさ」といった、従前の概念では整理しきれない論点についてもまとめている。これらの新たな提案・論点について、「公共の３要素」という考え方に基づいて整理することができるのではないかと、といったまとめ方ができれば、これまでの議論との関係性や、委員会における議論との整合もはかれるのではないかと。

発言者	内容
委員長	まとめの見出しについても、「市有施設はどうあるべきか」というタイトルになっているが、テーマとしては壮大であるので、再考が必要と考えている。
委員	施設がどうすれば使われるか、利用しやすいか、といったニュアンスの見出しの方が相応しいのではないか。
委員長	3章で示した論点が、今回の委員会における議論の軸である。それらの内容のまとめとしては、従来の公共施設の枠組みを緩めるという趣旨にたどり着くのではないか。3章では2つのテーマで議論を行ったが、これは様々な分野の施設の再編にも通じる内容であるということは追記しておきたい。
委員	施設総量フレームの設定や、「複合化・多機能化・戦略的配置」という議論の枠組みに加え、「公共の3要素」という概念をあわせて考えていくことで、今回提示した論点が整理できるというまとめ方が考えられる。3章で示した論点を類型化しながら、新たに提示した論点については、「公共の3要素」という枠組みで整理することがまとめになるのではないか。3章で示した論点から、4章のまとめが導かれているという流れは明らかにしていきたい。
委員長	4章の（2）の見出しとしてはどういったものが相応しいか。
委員	市有施設の方向性といった趣旨が相応しいのではないか。
委員長	本日出た意見を踏まえ、答申をまとめていきたい。改めて各委員間で調整は行いたい、最終的な調整は委員長に一任頂きたい。
各委員	（異議なし）
< 3. その他 >	
事務局	（案件は特になし）
委員長	今期の委員会としては、本日の会議が最終回になる予定である。最後に、各委員より、委員会全体を通じて一言ずつ総括してもらいたい。
委員	任期途中での就任となったが、豊中市としても大きな課題意識を持っているという印象を強く感じた。また、豊中市民でもあるので、市民の立場としても、この問題に取り組んでいく必要性を改めて認識した。 普段の業務では、民間事業者とのやりとりが多いが、資産の利活用の問題は民間でも活発に議論されている。その中では、まずコスト意識を持った議論がなされる。 今後取組みを進めるためには、市場や専門家の意見も取り入れながら、進めてもらいたいと考える。

発言者	内容
委員	計４年間、本委員会に携わった。深澤委員と同じく豊中市民であるが、市全体の施設について考える機会としては非常に貴重であった。 豊中市のなかでもこの問題については活発に議論されているので、施設に関する取組みをきっかけに、豊中市をより良くしていただいたい。
委員	一利用者、一市民の立場として出席してきた。 自身が手掛けている音楽サロンの事業も全く手探りの状態からスタートし、７年目を迎えているが、会員のニーズを取り入れながら運営するということを心掛けてきた。会員の提案を取り入れてうまくいった時に、自分自身も会員も大きな喜びを得られる。 施設の利用者の意見を取り入れながら、使いやすい施設というものについて検討していければ良いのではないかと思う。
委員	４年間委員を務めてきたが、コンセプトをどう作り上げていくかということの重要性を感じた。委員会で特に「機能と施設を分けて考える」ということを盛んに議論してきたが、一方でこういった概念は民間では当然のように考えられてきた。とはいえ、行政には様々なステークホルダーが関わっており、それ故の難しさも感じた。 その中でも、４年間一貫して同じ方向性で議論できたことは大きかったのではないか。 前期では施設見学等もさせてもらい、良い機会であった。
委員長	公共施設の再編をテーマに研究をスタートしたきっかけは、約１０年前にとよなか都市創造研究所に在籍していた際に、集会機能を有する施設の再編について研究を行ったことがきっかけである。 そして今、「集会所」といった切り口ではなく、「集会機能」という切り口で議論し、答申がまとまろうとしていることは非常に感慨深いものがある。 公共施設の再編は非常に時間がかかる問題ではあるが、地道に取り組んでいただいたい。 任期途中に急遽委員長に就任という形になったが、各委員・事務局の協力でうまく進行することができた。感謝したい。